
悪の国第一章悪の娘

ユウト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪の国第一章悪の娘

【Nコード】

N6663Q

【作者名】

ユウト

【あらすじ】

ボーカロイドの曲

悪の娘の小説です

ある国に二人の兄弟が生まれた

しかしあるとき二人は引き裂かれてしまい

それぞれの運命も引き裂かれたそんな二人の物語です

ちよつと妄想もあります

プロローグ

ここは黄色の国

そこで二人の子どもが生まれた一人は男の子その名をレン・グレリーアーノ

もう一人は女の子でその名をリン・グレリーアーノ二人とも生まれるとき

手をつないで生まれ仲の良い兄弟として国中に知れ渡ったしかし、

この国あるには言い伝えがある

男女の双子はどちらかを殺さなければ国を滅ぼすとゆう言い伝えだしかしその母が腹を痛めて産んだ子を殺せるはずもなく

3才までとゆう条件で育てそれ以降は誰かの養子にするときまつた

どうも新人のユウトです

ボカロ大好きで書いてしまいました

基本は曲どおりに進めて途中きかいがあれば番外編を入れますでは
続く

第1話 双子

「レンー早く早く男ならもつと早く。」

彼女はの名はリンこの国の姫だ

「リンちよつと早すぎだよ少しは待つてよ」

彼はレンこの国の王子だが3才で養子に出すことにされている
そのことをこの二人は知らない

「レンが遅いのが悪いのよもつと早くすればいいの」

「なんだよリンが早いんだろ」といいレンはリンにあっかんべーを
している

「なによこのバカレン」といいリンはほっぺをふくらます

そして二人ともなんだとーといわんばかりに言い争っている

そして二人ともそっぽを向いているしかし

くく5分後くく

「ねえリン今日は何する?」とレンがケンカをしたのもわすれて
リンにきくと

リンもけるつとして「何しようかー」といって丘の上の木に二人で
寄りかかり話している

それをみていたある二人は

「まったくあの二人は仲がよろしいですね」

「まったくださすが手をつないで生まれただけあるな」

二人を見てそんなことを話しているのはこの二人はこの城に雇わ
れている

召使いのがくぼとメイコだ

「だがあの二人はもうすぐ引き裂かれるなんてこれっぽっちも思っ
ていないのだろうな」

「そうでしょうねあと5日で引き裂かれるなんてね」

そう二人が生まれた時言い伝え通りレンは殺されるはずであつたし
かし母や王族のいろいろな人が

こんなに仲がよろしいのに殺すのはかわいそうだとい
3才で母の姉のルカに養子に出すこととなった

そしてレンはもうすぐ3才と半年ほどたちそろそろ養子に出すこ
となった

「しかし養子といつてもルカ様の所だから親戚だし城には出入り
きるはずだよな」

とがくぽが言う

「ええでも言い伝えもあるしそれが本当にできるかはわからない
しいのよ」

「そうか言い伝えと言ってもあの二人を離すのはかわいそうだな」

「そうよね」

とがくぽとメイコは話していた

はいこれで一話は終わりです短いですがよいですね

簡易キャラ説明

リン

黄色の国の姫

レンと仲がとても良くて

国でも評判そしてこの国の王女候補である

レン

黄色の国の王子

リンと仲が良く

とても美少年と有名

そしてもうすぐ養子に出される

連続投稿してみました次も又早いうちに投稿しますでは
続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6663q/>

悪の国第一章悪の娘

2011年10月8日17時53分発行